

こだま

第175号
2011.7

ISSN 0915-8782

CONTENTS

巻頭対談	1
環境学コレクションOPEN!	4
KULiC-α活動報告	5
明後日朝顔プロジェクト2011金沢	6
とぼろニュース	6
金大生のための読書案内	7
トピックス	8

金沢大学附属図書館報“こだま”

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>

巻頭対談

学びの空間は図書館をどう変えるか？

中央図書館にラーニング・コモンズKULiC-αが出来て1年あまり。設計・監修をして頂いた山内祐平東京大学准教授が来館されたのを機会に、柴田附属図書館長との対談を行いました。話は学習空間の話、図書館員の専門性から渋い大人の集まるバーの話まで…多岐に及びました。そのエッセンスをご紹介します。場所は3階オープンスタジオです。

司会：山田政寛(大学教育開発・支援センター准教授)

柴田

しばた
まさよし



正良

附属図書館長、人文学類長、人間社会研究域教授。
専門は、心の哲学、行為論、倫理学。

山内

やまうち
ゆうへい



祐平

東京大学大学院情報学環学際情報学府准教授。
専門は、学習環境デザイン。

劇的ビフォーアフター 空間は人の思考を変えるか？

司会●1年半ぶりに見学されていかがでしたか？

山内●劇的に変わりましたね。前に来たときは現在のカフェ付近はシーンとした感じでしたが、今日は感動しました。同じ図書館だろうか？と思いました。人の数が全然違います。毎日見ていると分からないと思いますが、ビフォーとアフターで劇的な変化です。

柴田●使い勝手やセンスも良いですね。コラボスタジオを一度使うと、普通の教室とは違うと感じます。ところで、ちょっと分からないのですが、空間や道具は、人の思考をどれくらい変えるものなのでしょうか。

「心地良い」「リラックスできる」といったことは、学習効果やアイデアの良さに結び付くのでしょうか？

山内●いきなり本質を突く質問ですね。ロジック的には「風が吹けば桶屋がもうかる」式のところがあるって、「人が集まり、コミュニティができ…その中からアイデアが出る」といったいくつかの要因が入ります。箱モノだけを作っても、魂が入らないとダメですね。この空間にどういう人集ってほしいのか、どういうことに起きて欲しいのかを読んでおく必要があります。ただし、予想を超えた、思いもよらない出会いが出てくるのも面白いところです。

柴田●この点については、ブックラウンジで研究発表が行われた時に面白いことを感じました。我々の



多様な空間の必要性

柴田●山内先生のエッセーの中に、「イノベティブなことは、1人の独創的な天才がやっているというよりは集団の力である」というのがありました¹。そういう天才とか卓越した将軍のような存在を、こういう空間は拒否しているということはないでしょうか？ある種の空間タイプとか場所は、思想の内容まで選択している…。

山内●それはそのとおりだと思います。

柴田●たとえば、独裁的な思想を拒否する空間。

山内●この空間スタイルは、まさにメディアメッセージです。

柴田●空間というのは、従来考えられていたよりもっと強い力を暗黙のうちに働かせている感じもあります。

山内●グループ・ジーニアスの話は、最近、ソーヤ(Sawyer, R.K.)という認知科学者が言い始めていることです。一人で生んでいるように見えても、実際には、その後ろ側にコミュニケーションとかネットワークがある。その一部では、こういう空間は機能すると思いますが、やはり多様性が必要です。こもったり、隠れたりする空間も必要ですね。東大には、古い建物の下などに洞窟みたいなところが沢山あります。そういうところで、ボーっとしていることも大事です。

柴田●そう言っていただいて、少し安心しました。洞窟型というか独居型のようなタイプの思考は必要だと思いますが、これは何と名づけられていますか？

山内●型ではありませんが、「リフレクション(内省)」と呼ばれています。「コラボレーション(協調)」とセットの概念です。この2つの往復運動が必要です。ただ、このオープンスタジオのような場所でも、空間とは関係なく、一人になれたりします。一人かどうかは必ずしも空間の型とは一致しません。洞窟の中で過去の偉人と対話しているということもあるかもしれません。

柴田●空間に促されたりするけれども、決定はされないということですね。

山内●そうです。その自由は奪えません。重要なのは、教育を洗脳にはいけないということです。選択の自由は学習者にあつて、この空間が嫌いだったら行かない自由を担保しなければならない。そういう意味でも、多様性も必要なのだと思います。

柴田●話はそれますが、先生が書かれたMITにあるバーの話²の中で「ため」が重要と書いているのを読んで感激しました。カフェの次に作るのはバー、と思ったくらいです。金大でできるか分からないんですが、大人の雰囲気のある研究者が、人生やら自分

世代だと、研究発表は、閉じられた空間で雑音をシャットアウトして、聞きたい人が集中して聞くのが一般的だと思ってしまいますが、カフェでやると、聞きたい人とあまり聞きたくない人がなだらかに連なってきます。このことはマイナス面かと思っていましたが、大道芸を見るような感じで、全体でイベントを共有するという形が出来ていたのは新鮮な驚きでした。

山内●学習共同体の構造を可視化した形になっていますね。コミットの度合いが空間中に可視化されています。

柴田●いろいろな人がいるのを排除してない、そういう構造の方が良いのかもしれませんが、ブックラウンジの壁面をギャラリーにすることも思いつきましたが、そのことによって新しく人を引き寄せることが出来ました。空間の持つ、人を惹きつける力の面白さを経験した1年間でした。

スタジオ型教室での協調学習

山内●話は変わりますが、スタジオ型教室は、使える先生と使えない先生がいます。使えるのは部屋の中を自由に歩き回れる人。使えない先生は前方から動けない人です。

柴田●それは個性でしょうか？

山内●個人の価値観が関係している気がします。図書館には多様な価値観を持つ人が集うわけで、こういうオープンスタジオのような空間に合わない人も当然います。新しい図書館になっても、従来の図書館の「静かな空間」は絶対に排除してはいけない。従来は、にぎやかにやりたい人が阻害されていましたが、この空間が出てくることによって、その人たちのポテンシャルを発揮できるような、多様な場が生まれたこととなります。

柴田●にぎやかにやるスタイルには何か名前は付けられていないんですか？

山内●学習については、協調学習という言葉が一般的です。

柴田●何かしっくりこない気がしますね、その名前は。

山内●私もそう思います。この部分については、アカデミックな部分がポテンシャルをすくい切れていません。言葉や概念を作らないといけない時期に入っています。

¹ http://blog.iii.u-tokyo.ac.jp/ylab/2011/03/post_293.html

² http://blog.iii.u-tokyo.ac.jp/ylab/2011/05/post_302.html

の研究やらをしゃべっている大人の空間。図書館に若い学生さんが沢山来ていいんだけど、苦み走った部分も欲しいなど、密かに思っているんですよ。

山内●よく分かります。これも空間の多様性の一つですね。異質な人や文化との葛藤があるから面白いんだと思います。

ラーニングコモンズ内サポートデスクの難しさ

柴田●1年間経って図書館は大分変わりましたが、「ここはこうした方が良いのでは？」というところはないですか？

山内●金大には限りませんが、ラーニング・コモンズ（LC）のサポートデスクは難しいですね。LCの学習支援をどう考えるかという本質的な問題に関わる点です。日本のLCは、アメリカのLCを直輸入しています。アメリカの場合、チュータリングの専門性を育成する仕組みが多数あり、サポートデスクがうまく展開していますが、日本では、いきなり図書館員が学習支援のことをやらないといけなくて、どうすればよいかわからないというところがあります。

日米では狙っている学習が違うので、LCも違っていいのかなとも思っています。日本のLCは、みんなでわいわい話しながら何か出来ればいいよね、という形になっています。自主的に発生した研究会を間接的に支援する形でサポートデスクが動くようにするというのが日本型の支援の形として考えられるのではないかと思います。

柴田●金大の場合も、要求があまりなく、こちら側で頑張っても、それほど必要とされていないという感じです。

山内●日米で評価システムが違うのも大きいですね。アメリカの大学の場合、途中で落とされてしまい、進級しないと卒業できないというプレッシャーが大きいので、お金を出して家庭教師を雇ってでも勉強しなくては、という人が多いようです。これをパブリックサービスで行わないとまずいだろうということで、そういう話が出てきました。

柴田●日本の場合、そういうサービスを欲しがっているのは、留学生なんじゃないかと思います。その意味で、留学生に特化したサポートデスクもいいんじゃないでしょうか。

山内●その逆も考えられます。近年、どんどん国際会議で発表して、国際的な業績を増やさないといけないというプレッシャーがありますが、どうやって英語の論文を書けばよいのかについてのサポートがなく、みんな苦勞しています。留学生には英語のできる人が多いので、そういうところで日本人学生と留学生が相互に貢献できる仕組みを作ってあげると、非常に面白いことができると思います。

司会●先ほど、この部屋でも、実際にそういうことをやっている人たちがいましたね。

柴田●留学生はこれから増えることはあっても減ることはないと思うので、そこにターゲットを絞ってやるというのは、一つの方法だと思います。

電子図書館時代の図書館員の専門性

柴田●先ほど、図書館が大学教育の中心という話題が出ましたが、実は、大学図書館員については危機的な状況にあり、外部委託をしてどんどん人を減らしましょうという話もあります。変えられない部分というのは、昔から言われているような専門性の部分ではなく、大学教育へのコミットだと思います。つまり、教員自身やらなくてはいけないと思っているけれどもやりたくない、やっても下手だといった部分に図書館員が食い込み、大学になくしてはならない機能として存在してしまう。図書館員が教育のベースの部分、基礎になるしっかりした部分を教え、我々はそのあとの専門的な部分を連携しながらやっていく、というような形でraison d'être（レーゾンデートル：存在理由）を確保しないと、図書館員の生き残りは難しいのではないかと思います。

山内●本質的に図書館の果たしてきた役割で大切なものは、本を人に使ってもらふことだと思います。人の記憶を焼き付けたものである図書館がさらに新しい知を生み出す行為に役に立つ「情報と人をつなぐ」ということが図書館員の本質的な専門性だと思います。それが、人と人をつなぐことにも拡張され、大学の中心になる。これらを支えるための専門性という風に再定義する必要があると思います。

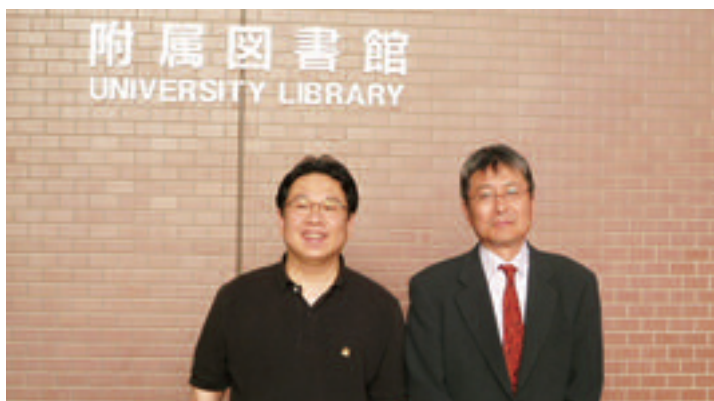
この10～20年、すごい転機にきています。学内会議でもお感じになると思いますが、理系の人たちは「全部電子ジャーナルでも良い。テキストも別に紙じゃなくてもいいんじゃない」と思い始めています。本が大幅減ってきて、本と電子媒体と人の3つの要素がある場合に、これらをどうつなげて知を生み出すのか。文化として蓄積する行為をどう支えるか。そういったことを考えるのが図書館の役割になるでしょう。そのためには、本を見るのではなく、人を見るように図書館員がならないといけないと思います。

柴田●専門性として、何が本当に必要にされているかを考え直し、新しく作り出せる時期とも言えます。

山内●面白い時期ですね。いろんな形を試行錯誤できます。

柴田●これが専門性の新しいパラダイムである、と言うつもりはないのですが、自然科学系図書館の方で環境学コレクションを作り始めています。環境学





というのは、正直いって中身がないようなジャンルです。どういう本を選ぶかということについては、最終的にはそこを使って、どう環境学の内容を伝えられるかといったことと関連すると思います。情報の部分と人の部分との間をうまくつなぐことができれば、これまで名ばかりで実態がなかった「サブジェクトライブラリアン」、この人を新たにこのコレクションに付けてください、といった方向に展開する余地もあると思っています。教育をいかに担うか、ということがないと図書館員もこれからはつらいでしょう。

超未来の大学は「図書館附属大学」？

山内●話は少しずつですが、今回の大震災で分かったのは、理系についても、社会と無縁ではいけないということです。専門情報に電子的にアクセスできるだけではダメで、それらを複合的に広げて、多様な人たちとつきあえる何かが必要です。その視点を理系の図書館に持たないといけないと思います。

先程の環境学もそうだと思いますが、単なる電子窓口じゃないものが付け加わらないと、図書館のいちばん大切な文化的部分が抜けるようで、恐い気がします。

柴田●やはり、図書館にも「ため」があるんだろうと思います。いろいろなジャンルの人がいることが図書館の持っている「ため」であって、そこをうまく生かしているかどうかが大学の力だと思います。本当のことを言うと私の図書館の最終的イメージは、「大学がなくても存在する図書館」です。今は「大学に必要とされる図書館」なんですけれども、最終的には「大学を必要としない図書館」。それ自体として地域や社会から必要とされる図書館ですね。

司会●大学図書館というネーミングでなくなりますね。

柴田●逆に大学は、「図書館附属大学」でしょうか。

山内●大学そのものの位置づけも、変わり続けるだろうと思います。今までのカテゴリーだと大学ではなかったものが大学になってきたりします。知を生み出すサロンが大学のコアでその他は大学でなくなってしまう可能性も十分あると思います。今は、「ウソだろ？」ということが結構起きてしまうので、「超未来」的に言うとうりうるかもしれませんね。

(編集担当：情報サービス課 橋 洋平)



【文献紹介】

学びの空間が大学を変える
／山内祐平編著、ポイックス、
2010(中央図書館377.17:Y19)

自然科学系図書館 環境学コレクション OPEN!

◆「環境学コレクションおよびAVブース公開記念式」の開催 ……………

4月26日、自然科学系図書館で、「環境学コレクションおよびAVブース公開記念式」が行われました。

式典では、櫻井勝情報担当理事の挨拶の後、柴田正良附属図書館長がコレクションの説明を行いました。次に、笠井純一共通教育機構長から本学の環境教育の取組みについての紹介があり、式典に続いて、今回併設されたAVブースで視聴覚資料のデモンストレーションを行いました。

◆環境学コレクションとAVブースの利用 ……………

環境学コレクションは、本学の中期目標・中期計画で掲げている、学士・修士一貫の環境教育プログラムの基本資料とするために、国内外の環境に関する資料を集めたコーナーです。蔵書数は、現在900点を超えました。学習資料としてだけでなく、広く環境について考えるきっかけとしてもお役立てください。

また、AVブースでは、環境学に関する映像資料を視聴することができます。映像を通して、環境学についての理解をより深めてもらえればと思います。AVブースを利用するときは、学生証（職員証・図書館利用券）が必要です。詳しくは自然科学系図書館カウンターでお尋ねください。



KULiC-α 活動報告

2011年4月～6月

学習支援文庫設置／iPadなどの館内貸出開始／ 「ほん和かライブ」開始

KULiC-αを使った学習支援を充実させ、図書館活動を盛り上げるため、今期は次のような活動を行いました。

オープンスタジオ

学習支援文庫の設置

今年度から、オープンスタジオ内に、学習・研究のスキルや、論文・レポートを作成する際の参考になる本を集めた「学習支援文庫」を設置しました。まだ、冊数は多くありませんが、日常の学習にお役立てください。OPACでは、「図オープンスタジオ」と表示されます。

iPadなどの学習支援機器の館内貸出開始

オープンスタジオ内での学習支援等を主な目的として、5月末から次の機器類の館内貸出を始めました。学生証、職員証を添えて、サービスカウンターに申し込んでください。

iPad(Wi-Fi, 16GB, 8台, 電子書籍, インターネットの閲覧, 各種アプリの活用)／**ビデオカメラ**(1台, オープンスタジオ内でのプレゼンの練習用)／**インタラクティブユニット**(1台, ホワイトボードに書いた文字のPCへの取り込み)

その他、次の機器類を備えております。自由にご利用ください。

無線LAN対応プロジェクター(3台)／**可動式スクリーン**(3面)／**ホワイトボード**(大3面, 小6面, 机上タイプ3面)

ワークショップ、セミナー等の開催

- 5月25日 第7回学生・学習支援研究会『今からできる就職活動準備』
講師 山田政寛准教授(大学教育開発・支援センター)
- 5月31日, 6月2日留学生(中級, 上級)のための日本語ライティングトレーニング講習会(留学生センターライティング支援室主催)の1コマで, 図書館職員が文献検索法の説明を含む図書館ツアーを実施
- 6月22日 第9回学生・学習支援研究会『レポート・ライティングワークショップ』講師 山田政寛准教授(大学教育開発・支援センター)



iPadを活用した文献検索法の説明

ブックラウンジ

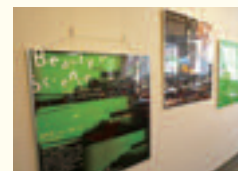
「ほん和かライブ」を開始

ブックラウンジの雰囲気をさらに盛り上げるために、「ほん和かライブ」と題したイベントを定期的で開催することになりました。講演、発表、コンサート、サークル発表…図書館の催しとして相応しいものならばジャンルは問いません。出演希望の方は、中央図書館係(076-264-5211, e-mail etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。



ギャラリーαでの展示

- 3月22日～4月中旬 写真展「Beauty in Science, Technology and Engineering」
(金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー主催)
- 5月24日～6月7日 第1回「世界なう」(Oxfam Club金沢による写真展)
- 6月8日～6月29日 JICA北陸パネル展



Beauty in Science, Technology and Engineering

●●「ほん和かふえ。」 図書館のださんのおいしいおすすめ ●●

夏です！スムージーが美味しい季節になりました。

今年のスムージーは、新しくパイン味・マンゴー味が加わって、抹茶・カフェモカ・パイン・マンゴー(各290円, +30円でホイップクリーム, +50円でホイップクリームとソース のトッピングもOK)の全4種類, シャリシャリとした氷が涼しさ全開！涼みたい時におすすめです。また、涼しくなりすぎた時, 暑い時こそ熱いものを飲みたい時, ホットドリンクはいつも通り楽しめますのでぜひどうぞ！

そしてお気づきでしょうか？大学会館側入口にパラソルが立ちました。青いパラソルの下, 明後日朝顔を見ながらの「ほん和かふえ。」いかがでしょうか！



「明後日朝顔プロジェクト 2011 金沢 in 金沢大学中央図書館」苗植え式

明後日朝顔の基本理念

種は、季節の移り変わりを記している。
種は、時を超えて次の世代に伝わるものである。
種は、見知らぬ土地に新しい命が生まれる契機である。

一畝の種の中には今までの歴史の記憶が蓄積されている。
一畝の種の中には未来に伝えるたくましさの思いが詰まっている。

記憶と思いが今日を越えて花を咲かせるまで。
明日の種が生まれてくる。
種の記憶は未来の明日へと繋がっていく。
そして・・・明後日の種へと思いは伝わる。

日比野克彦

明後日朝顔プロジェクトとは…

2003年にアーティストの日比野克彦氏が新潟県十日町市 助 平で地元住民との交流を促進する目的で始めた朝顔育成プロジェクト。今回苗植えした種は、次の表のとおり受け継がれてきたものです。
詳細▶ <http://www.asatte.jp/asatteasagaoproject/>

金沢大学附属図書館では、今年も中央図書館で明後日朝顔プロジェクトを実施する

ことになりました。当館が本プロジェクトに参加して3年目となり、これからは朝顔の育成を通じて、人と人、人と地域、地域と地域、そして金沢大学の学生・教職員のコミュニケーションが深まることを願っております。今年は、中央図書館の他にも大学会館1階で実施することになりました。

6月14日の苗植え式には、学生や職員44名が参加し、柴田館長の挨拶の後、炎天下の中、560苗を一苗ずつ丁寧に植えました。参加者の中には、土に触れるのが小学校以来という学生もあり、新鮮な気持ちで苗植えを行っていました。

夏には、たくさんの葉と花をつけ、ツルを伸ばし、強い陽ざしをやわらげてくれるでしょう。そして秋にはたくさんの思いが詰まった種の収穫です。



種の記憶（履歴）

2010	
金沢	
2003	高平
2004	高平
2005	木戸
2006	—
2007	金沢
2008	—
2009	金沢
2010	金沢

図書館学生ボランティア とぼらニュース

とぼらの活動として、これまでの選書コーナーを一新し、定期的に展示替えを行うことにしました。5,6月は「金沢といえば…」というテーマでメンバーが本を選び、さらにコメントを付けて展示しています。図書館にこんな本があったとは、という風に、本との出会いを楽しんでもらえれば、と思います（貸出OKです）。また、今年度毎月開催している**とぼら**シアター（映画上映会）については、授業の合間にはっと息抜きできる空間になるよう続けていきます。その他の活動もミーティングであれこれ企画中です。なお、**とぼら**メンバーを随時募集しています。

（法学類3年・高嶋志帆）



とぼら選書コーナー「金沢といえば…」
（中央図書館2階インフォスクエア）

金大生のための読書案内－教員から学生へ



大友 信秀 教授(人間社会学域 法学類)

「自分をブランディングしてみませんか？」

平成23年6月13日～ 中央図書館で展示中

第9回



平成20年にスタートし、教員から教員へ、リレー形式で続いてきている教員おすすめ図書コーナーです。9番目のバトンを受けてくださったのは、法学類の大友信秀先生です。

学生のための読書案内という企画でお奨めの本をリストアップするように依頼され、いろんなことを考えてみました。まず、大学生に奨めるべき本ってどんなものだろう？自分は大学生のときに、あるいはそれまでに、あるいはその後に、どんな本を読んできたんだろう？もう一度大学生に戻れるとしたら、自分は、どんな本を真っ先に読むんだろう？自分が大学生なら、教員にどんな本を奨めてもらうことがうれしいんだろう？

ふだん大学で授業をしていると、専門的な勉強の前に、もっと大切なことを学ぶべき学生が大勢いて、そういった学生が自分の置かれている状況に気づいていない姿を見て歯がゆい（もっとわかりやすく言うところ、「痛い」状態にいる学生を見るのがつらい）思いをしている自分があることに気づきました。

みなさんの周りにはたくさんの学びの場、学びの手段があるのに、まじめな人ほど、常識的にみんなが従う場や方法に縛られてしまっていないですか？つまり、大学に入って、入った後は授業に出る。そうすると、社会に出るために必要なことが学べる。だから、それ以外のことには関心を持たなくて良いと考えていませんか？

私は法学がそもそもの専門ですが、最近では、ブランディングを指導するコンサルタントとしての仕事もしています。ブランディングは、簡単に言うと、自分の強みを理解・把握して、それを最も活かせるマーケットにつなげることで新しいビジネスを作る、というテクニックです。コンサルタントをしていると、当たり前ですが、社会で生きていくために必要なことに嫌でも気づかされます。世の中で成功するためには大学を出ることは必ずしも必要ない、とい

うよりも、大学で学んだことが社会に出た後の成功にはほとんどつながっていない、ということに気づかされました。

そこで今回は、学生のみなさんに、大学にいるだけではなかなか気づかない、そういうことに気づくきっかけになる本をいくつか紹介したいと思います。実戦で役立つ本から、ジワジワと自分の物の考え方を変えるようなものまで幅広く見繕ったつもりです。ふだんあまり本を読まないという方にも関心を持っていただけるように、漫画も一つ選んでみましたので、手にとってみてください。

詳細は、展示コーナーまたは図書館Webサイトをご覧ください。

	書名(著者、出版事項)
1	ビル・ゲイツの面接試験「富士山をどう動かしますか？」 (ウィリアム・バウンドストーン著、青土社、2003.7)
2	まず、ルールを破れ：すぐれたマネジャーはここが違う (マーク・バッキンガム、カート・コフマン著、日本経済新聞社、2000.10)
3	20歳のときに知っておきたかったこと：スタンフォード大学集中講義 (ティナ・シーリグ著、阪急コミュニケーションズ、2010.3)
4	伸びる30代は、20代の頃より叱られる (千田琢哉著、きこ書房、2010.9)
5	プロフェッショナルプレゼン。相手の納得をつくるプレゼンテーションの戦い方。 (小沢正光著、インプレスジャパン、2008.9)
6	奇跡力 (井上裕之著、フォレスト出版、2010.10)
7	バカな職場：それでも成果を上げる心理学：なぜ会社では不条理が起こるのか (渋谷昌三ほか著、レジデント社、2005.10)
8	サルでも使える会議の本 (吉本精樹著、アスカ・エフ・プロダクツ、2006.1)
9	「ケンカ」のすすめ：戦いの数だけチャンスがある！ (落合信彦著、ザ・マサダ、2000.3)
10	お金でなく、人のご縁ででっかく生きろ！ (中村文昭原作・コウダイ作画、サンマーク出版、2009.11)
11	キリスト教は邪教です！：現代語訳「アンチキリスト」 (F・W・ニーチェ[著]、講談社、2005.4)
12	一瞬で自分を変える法：世界No.1カリスマコーチが教える (アンソニー・ロビンズ著、三笠書房、2006.11)
13	君たちはどう生きるか (吉野源三郎著、岩波書店、1982.11)
14	社員力革命：人を創る人を生かす人に任す (網島邦夫著、日本経済新聞社、2006.9)



図書館



いよいよ今秋、医学系分館の増改築工事が始まります！

平成23年秋から、築40余年を経た医学系分館の増改築工事が始まります。その間、附属病院の旧外来診療棟に仮移転しサービスを行います。しばらくの間ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。リニューアルオープンは平成24年12月の予定です。増改築後は、学習・研究支援の拠点となるよう、ラーニング・コモンズなどの学習スペースも充実する予定です。詳細が決まりましたら、図書館Webサイトなどでご案内いたします。

共通教育科目「大学・社会生活論」「情報処理基礎」を図書館職員が担当

全学類1年生を対象とした授業の講師を図書館職員が担当し、基本的な図書館の利用方法、資料の探し方の他に、データベース、電子ジャーナルの利用方法について説明しました。

授業で紹介した機能を実際に使ってみると、疑問点も出てくると思います。

図書館職員までお気軽にお尋ねください。



- ・大学・社会生活論（4月11日～5月31日）
- ・情報処理基礎（5月13日～5月31日）

保健学類で文献検索講習会を開催

保健学類図書室の職員が講師を担当し、看護学を専攻する3年生および博士前期課程1年生を対象に、文献検索の講習会を行いました。今回は、医中誌Web、PubMed、CINAHLといった、看護分野では必須のデータベースの検索方法について説明、実習を行いました。学生たちは、シソーラス検索などの高度な検索方法に、熱心に聞き入っていました。今後の研究に活用されることを期待しています。

（5月23日～5月24日）

EUカフェとEU資料展2011を開催

中央図書館3階にあるEU情報センター（EUi）の広報と利用促進を目的に、『EUカフェ』と『EU資料展2011』を開催しました。

EUiは、欧州委員会が世界の約500か所に設置し

たもので、日本では本学を含め19の大学に設置されています。EUiでは、EU官報、条約、年次報告書などの公式資料や各政策分野の広報資料などから、EUの様々な情報を得ることができます。

今回の『EUカフェ』では、EU設立の主要目的である“経済”にスポットを当て、5月11日、人間社会研究域経済学経営学系の上條勇教授、佐藤秀樹准教授を講師にお迎えし、「ユーロ危機とEUの対応」をテーマにお話ししていただきました。出席者にはコーヒーがサービスされ、リラックスした雰囲気の中、両先生の講演に耳を傾けていました。

また、『EU資料展2011』では、EU関係図書、ドイツの絵葉書、EU各国のコインの展示を行い、来場された多数の方々に関心を持って見ていただきました。今後も、EUiを学習や研究にお役立てください。

（5月10日～5月22日）



中央図書館にパラソルが登場

大会館側入口に青いパラソルが登場したのでご存知ですか？テーブルと椅子も増え、中央図書館のカジュアルなコミュニケーションスペースがさらに広がりました。憩いのひとときに、どうぞご利用ください。



活動記録（2011.4～2011.6）

☆講習会など

SciFinder講習会

（自然科学系図書館） 6月8日

☆会議など

図書館委員会 第1回 6月9日

金沢大学附属図書館報「こだま」第175号

平成23年7月31日発行 発行：金沢大学附属図書館

編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂

〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200

E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp